

## 熊本県下で発見されたクレチン症の検討

藤本 茂紘 松田 一郎 児玉美穂子  
西山 宗六

(熊本大学小児科)

### はじめに

九州地区は大分、佐賀を除いた6県を対象に化血研にてTSHによるマス・スクリーニングが行われている。昭和58年12月までに726,608名についてスクリーニングが行われ陽性数131名、即ち5,547名に1名の割合で要精査されている。またこれ以外に疑陽性数として105名も要精査となっている。県別にみると鹿児島、福岡、沖縄、宮崎、熊本、長崎の順で南九州に高い。

そこで熊本県下では110,631名のうち陽性数14名、疑陽性数13名、計27名が要精査となっているが、1名を除いた26名について種々検討したので報告する。

### 病型分類

クレチン症と確定診断された者7名、その疑いがあり治療中の者7名、一過性甲状腺機能低下症3名、一過性高TSH血症ならびにその疑いのある者9名であった。クレチン症と確定診断された者7名のうち、無または低形成1名、異所性3名、分類不能3名であった。これら26名中20名(76.9%)が女児で全国平均よりも高い比率であった。

次にこれら病型分類された患児のスクリーニング時の濾紙血TSH値を検討したが軽症型クレチン症(分類不能)の3名を除くと、甲状腺機能低下症を示した症例は、いずれも50  $\mu\text{U}/\text{ml}$ 以上を示していた。また臨床スコアも多くみられ、DFCのみられないものまたは小さいものも約半数であったが、これらでクレチン症と一過性甲状腺機能低下症とは区別できなかった(図1)。

次に病型と血中サイログロブリン値について検討した。測定にはサイロイドテスト陰性の血清を、栄研キットを用いて測定した。これでは甲状腺の存在するもの、または思われるものは高値を示した。しかし一過性甲状腺機能低下症や一過性高TSH血症などとの鑑別には、サイログロブリンを測定した血清がすでに治療後の血清であるなどの理由より、明確にできなかった。(図2)

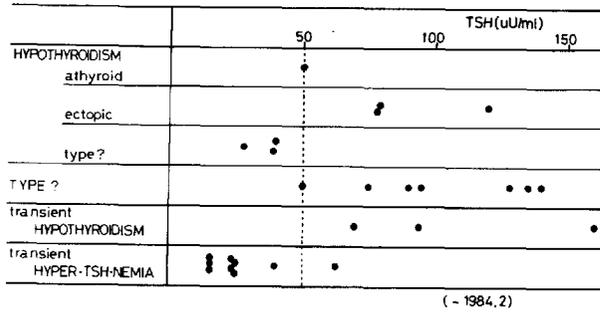


図1 病型とスクリーニング時のTSH

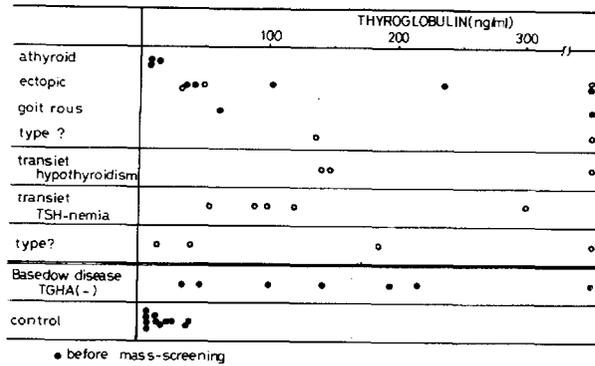
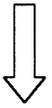


図2 病型とサイログロブリン値



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

九州地区は大分,佐賀を除いた6県を対象に化血研にてTSHによるマス・スクリーニングが行われている。昭和58年12月までに726,608名についてスクリーニングが行われ陽性数131名,即ち5,547名に1名の割合で要精査されている。またこれ以外に疑陽性数として105名も要精査となっている。県別にみると鹿児島,福岡,沖縄,宮崎,熊本・長崎の順で南九州に高い。

そこで熊本県下では110,631名のうち陽性数14名,疑陽性数13名,計27名が要精査となっているが,1名を除いた26名について種々検討したので報告する。